

袋井市の 歴史文化の特徴

テーマ1 河川に育まれた平野の歴史と人々の祈り

市内を南北に流れる太田川や原野谷川を代表とする河川は、古くから地域に豊かな水の恩恵をもたらし、穀倉地帯を形成した。一方、肥沃な平野や多くが軟弱地盤であるために、地震発生時には噴砂による液状化の被害を受けた。傾斜の少ない平野は、河川の氾濫や沿岸部の高潮によって浸水被害を大きく受けるなど、自然災害との戦いの中で土地を守り、災害に備え、復興する過程で地域を発展させる努力をしてきた。

自然に立ち向かうなかで、人々は農作物の実りへの感謝とともに、災いから逃れるための祈りを捧げてきた。

テーマ2 道がもたらした人の往来と文化

奈良時代に整備された東海道は都と地方を結ぶ重要な道として位置付けられていた。市内においても、東西方向への人と物の移動を軸に、官衙関連施設が交通の要所となる位置から発見されている。こうした道は、奈良時代以前の古墳時代から、古墳などの立地によって人々の往来が想定されており、長い歴史の中で成立して来た。

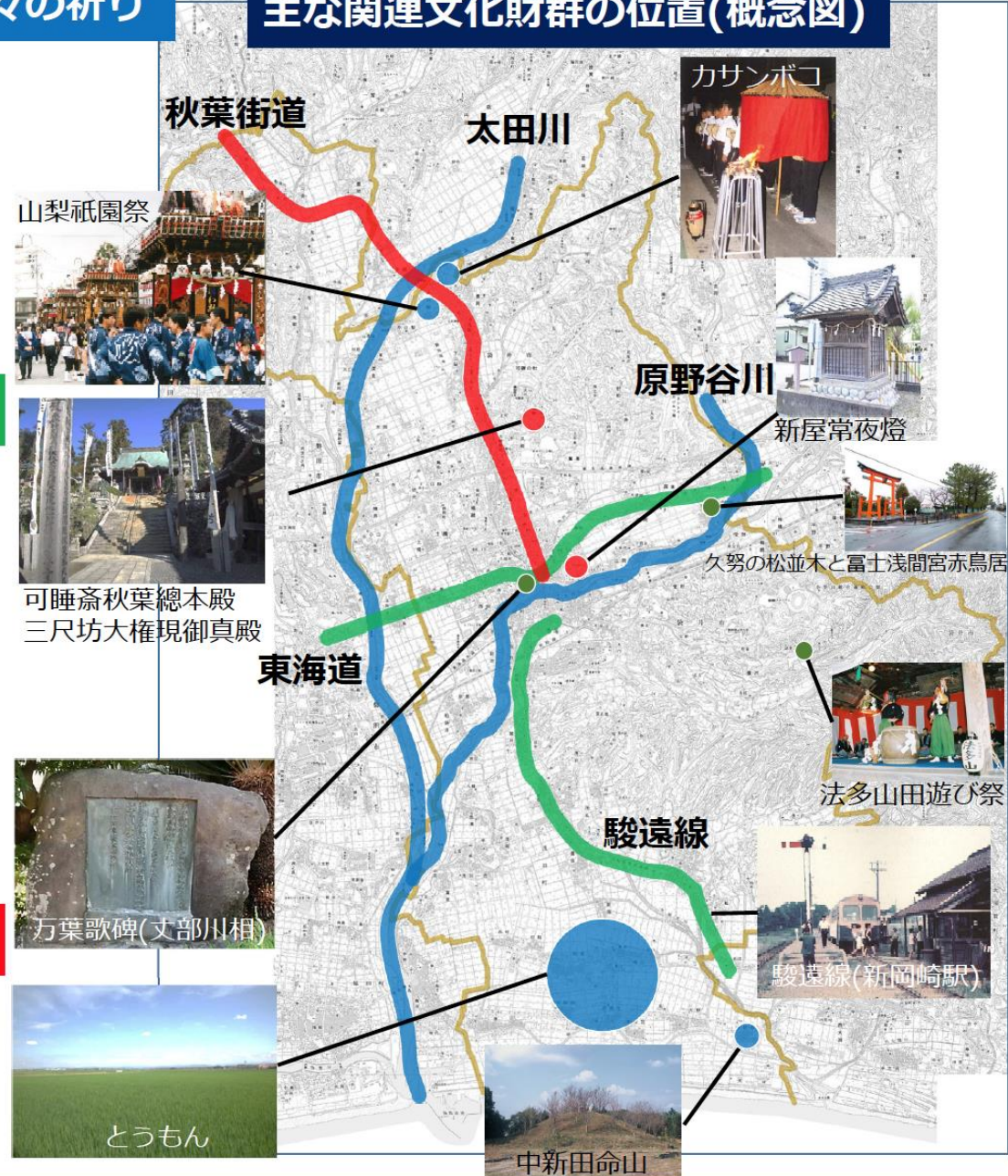
東海道は、奈良時代の後も各時代の幹線道路として意識されながら、江戸時代には江戸と地方を結ぶ道としてさらなる発展を遂げる。人々は道を移動する中で、日記や歌に記録を残し、沿線には様々な文化をもたらした。

明治時代に入ると、鉄道の発展とともに、東西交通に加え、当市を起点に南北方向への鉄道路線が開業すると、ますます、人と物の往来が活発となり、地域が発展した。

テーマ3 火伏せの神の信仰と地域の連帯

秋葉山にまつわる秋葉信仰は、その信仰の広がりとともに、参拝に訪れる人々が増加し、多くの街道を発展させて来た。街道の発展は、沿道の地域に常夜灯や道標などの多くの文化財を残すこととなるとともに、その形成過程において信仰を通じた地域の安全への祈りへと発展し、地域の連帯をもたらした。

主な関連文化財群の位置(概念図)



1 川に育まれた平野の歴史と人々の祈り



「とうもん」

「命山」



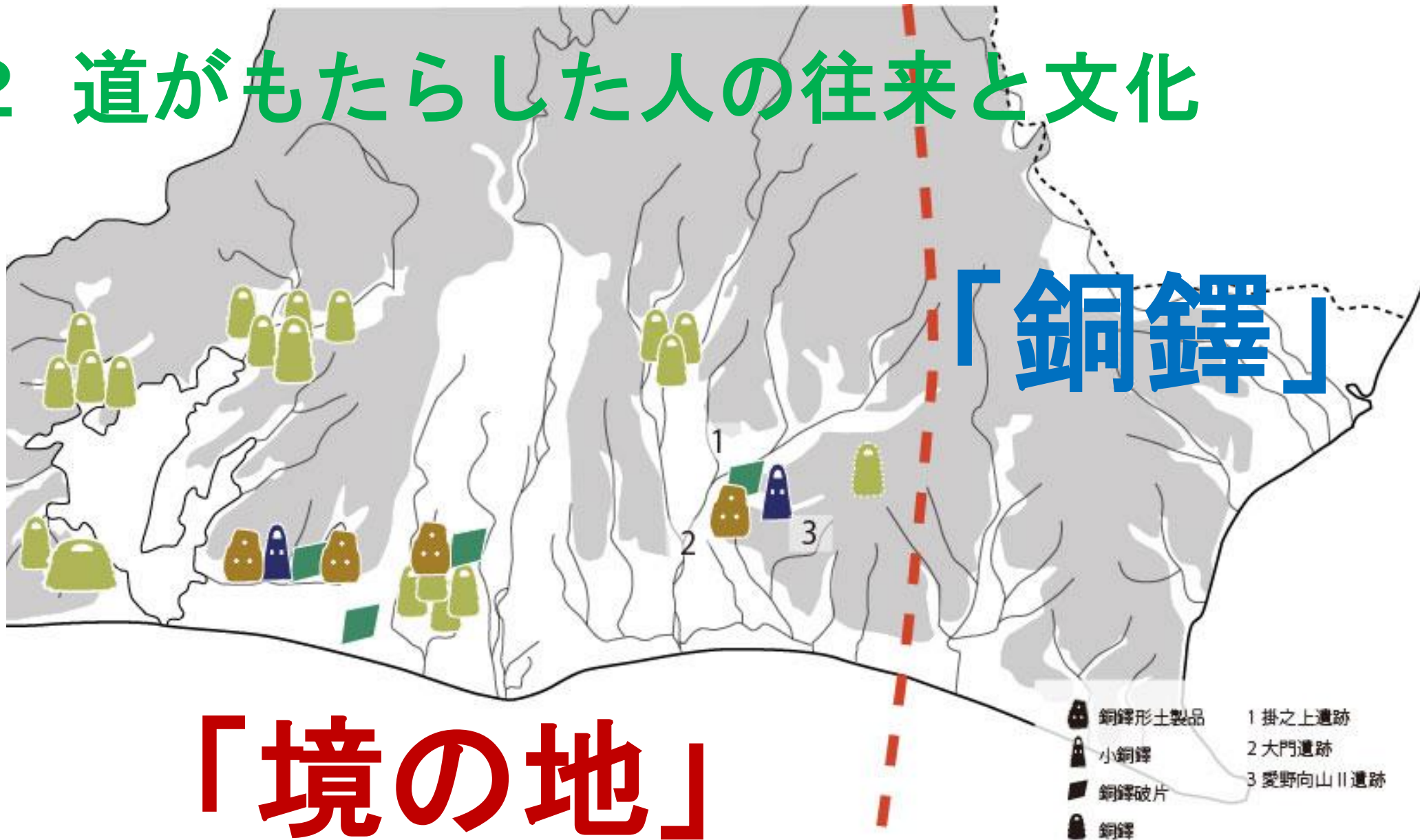
2 道がもたらした人の往来と文化



▲掛之上遺跡の復元銅鐸（高さ52cm、幅27cm）
9次調査で、破片として出土した。類似する浜松市細江の穴ノ谷銅鐸(近畿式)をモデルにして復元した。



▲愛野向山遺跡 小銅鐸（高さ7.5cm）
銅鐸に麻の紐を巻き付けて舌に転用している。紐の内側頂部には摩擦痕があり、実際にぶら下げて鳴らしていたことがわかる。銅鐸は3.5cm。



「横穴式木室」

- 凡例
- 横穴式木室
 - 横穴式石室
 - ▲ 横穴式横穴



「横穴」

「横穴式石室」

秋葉線

秋葉線・駿遠線路線図



駿遠線

軽便鉄道



3 火伏の神の信仰と地域の連帯

秋葉山
参詣道法圖



常夜燈

秋葉信仰

(袋井市 永井宏親氏蔵)



尾州大宮
施印 長尾治右衛門
製本町 袋井市 菱屋久八郎

袋井市の変遷から見る地域コミュニティと都市の成り立ちについて

- 1 市町村合併から見る本市の成り立ち
- 2 地域コミュニティの基礎となる14町村(明治の大合併)
- 3 本市の都市の骨格と構造について
- 4 土地利用から見るまちの発展について

2024.6.13
企画政策課

袋井市の変遷から見る地域コミュニティと都市の成り立ちについて

- 明治22年**、市町村制施行に伴い54の村(宿)から誕生した**14町村が、現在の地域コミュニティセンターの設置単位と概ね合致し**、地域コミュニティの基礎となっています。※市内コミュニティセンターは、全14館(山名、三川、今井、袋井東、袋井北、袋井西、袋井南、豊沢、高南、笠原、浅羽北、浅羽西、浅羽東、幸浦)
- 昭和30年代**、14の町村から**3市町村(袋井市、山梨町、浅羽村(昭和31年に浅羽町))**が誕生しました。
- 昭和38年**、旧山梨町と旧袋井市が合併し、平成17年に旧浅羽町との合併により、現在の「**袋井市**」が誕生しました。

1 市町村の合併から見る本市の成り立ち

明治10年	宇刈村	春岡村	上山梨村	山科村	沖山梨村	萱間村	山田村	大谷村	川会村	見取村	友永村	深見村	太田村	徳光村	横井村	小山村	延久村	村松村	国本村	広岡村	山科村	堀越村	久能村	鷲巣村	袋井宿	川井村	木原村	西田村	土橋村	赤尾村	高部村	神長村	豊沢村	田原村	岡崎村	山崎村	諸井村	浅羽村	浅名村	豊住村	浅岡村	長溝村	富里村	一色村	一之池新田村	中村	新堀村	梅山村	松原村	初越村	湊村	太郎助村	西同笠村	寄木村																																														
明治22年 ※市制・町村制施行	宇刈村	山梨村			三川村				今井村				久努村		久努西村		山名町		笠西村		田原村	笠原村	上浅羽村		西浅羽村			東浅羽村		幸浦村																																																																						
明治30～40年		山梨村 明治31年3月31日																							袋井町 明治42年1月1日																																																																											
昭和3年																					袋井町 昭和3年12月15日																																																																															
昭和23年																					昭和9年23月1日																																																																															
昭和27年																					昭和10年27月10日																																																																															
昭和29～31年	昭和30年1月1日 山梨町			昭和30年3月31日				昭和39年11月3日				昭和33年11月3日 袋井市																				昭和9年30月1日		昭和9年31月30日		昭和30年3月31日 浅羽村 ↓ 昭和31年10月1日 浅羽町																																																																
昭和38年	昭和38年1月1日																																																																																																			
平成17年																																																																																	平成17年4月1日 袋井市																			

2 地域コミュニティの基礎となる14町村（明治の大合併時に誕生した14町村が、今も特色ある地域づくりの拠点に）

- 明治22年に誕生した14の町村は、その後の合併等により若干区域が変更となっているものの、現在、公共施設であるコミュニティセンターが設置される14の地域と概ね一致している。
- 各地区は、**コミュニティセンターを拠点にまちづくり協議会が組織され、地域独自のまちづくりに取り組んでいる。**

明治の大合併による14町村

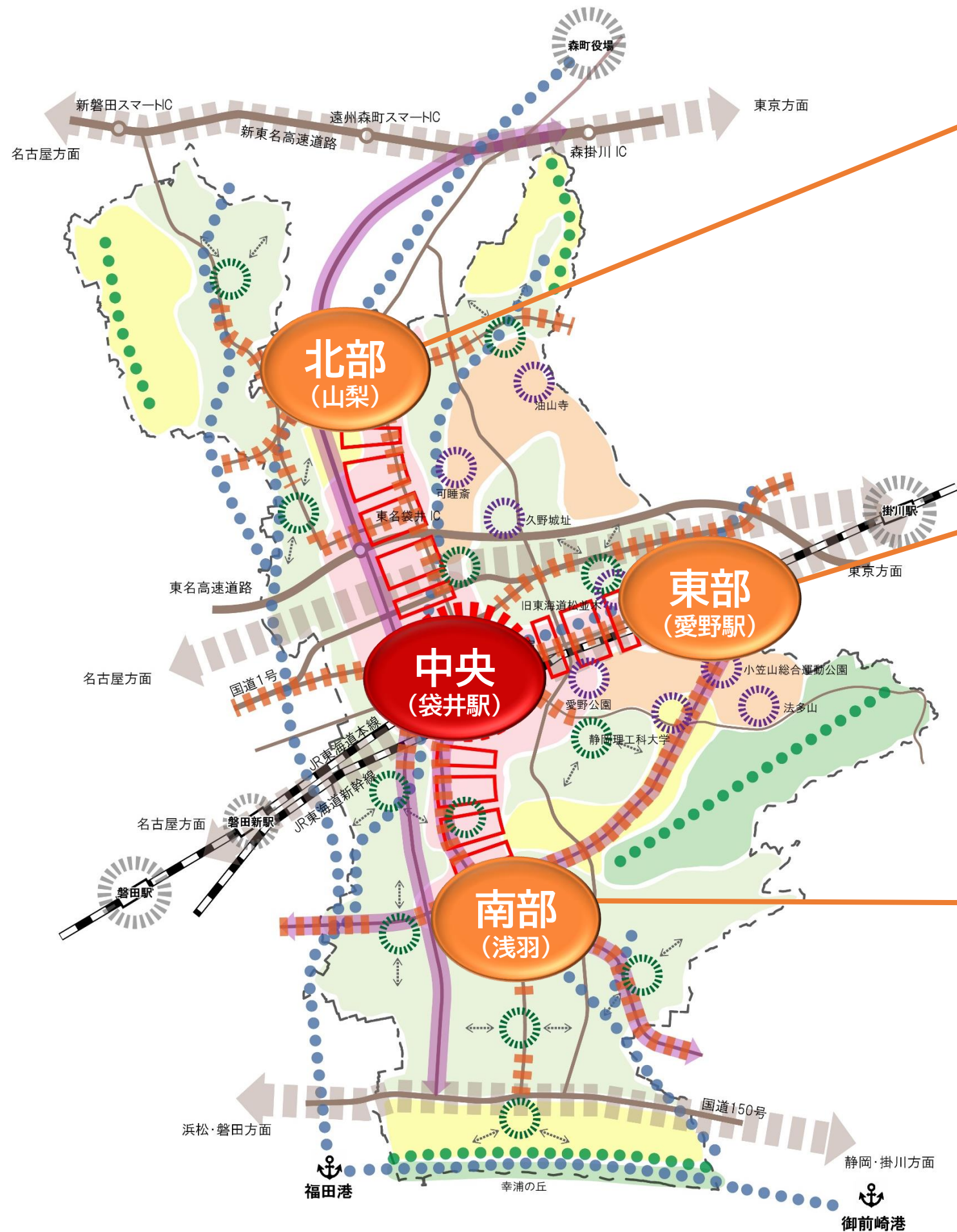


第2次総合計画(地域編)策定地区



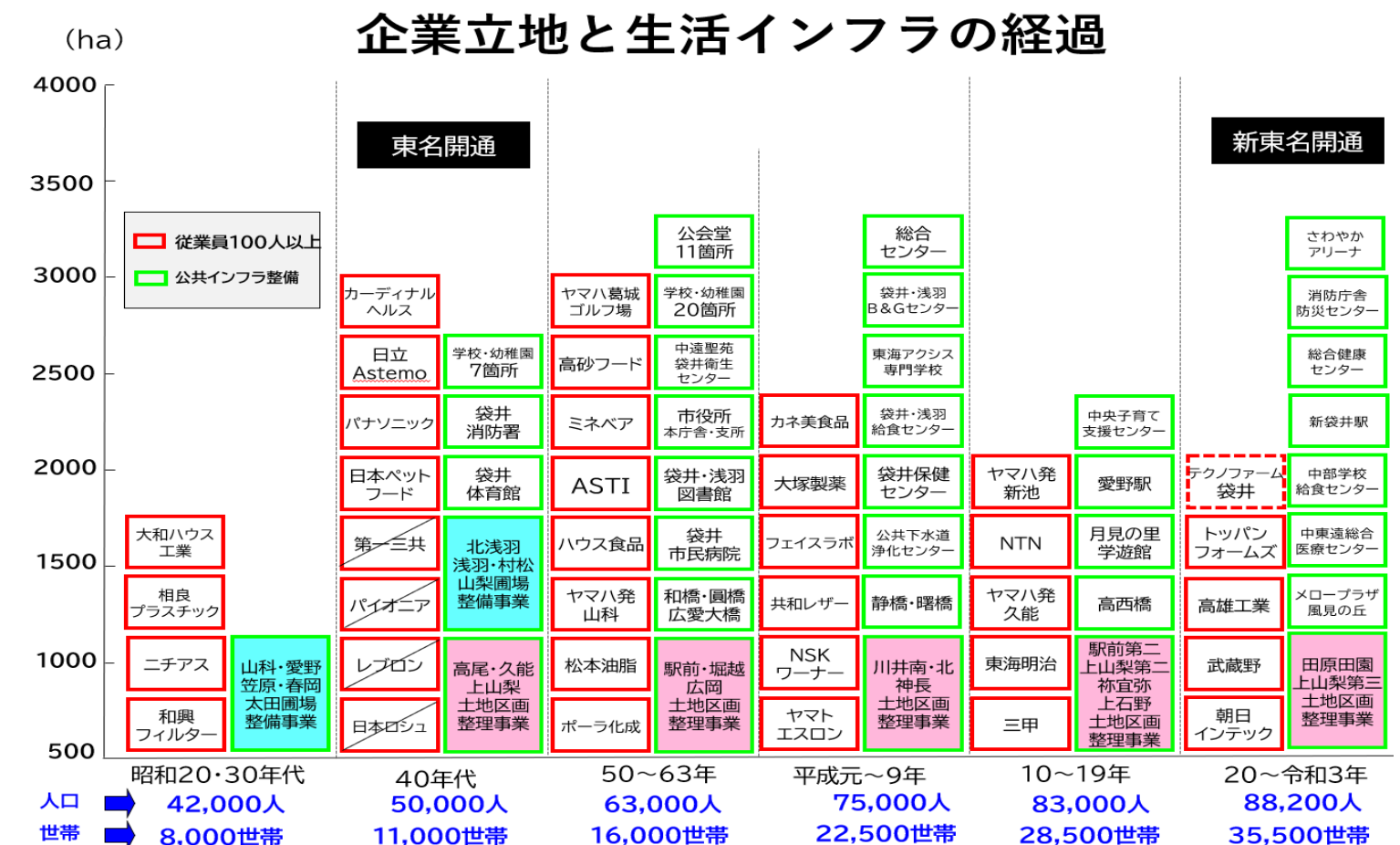
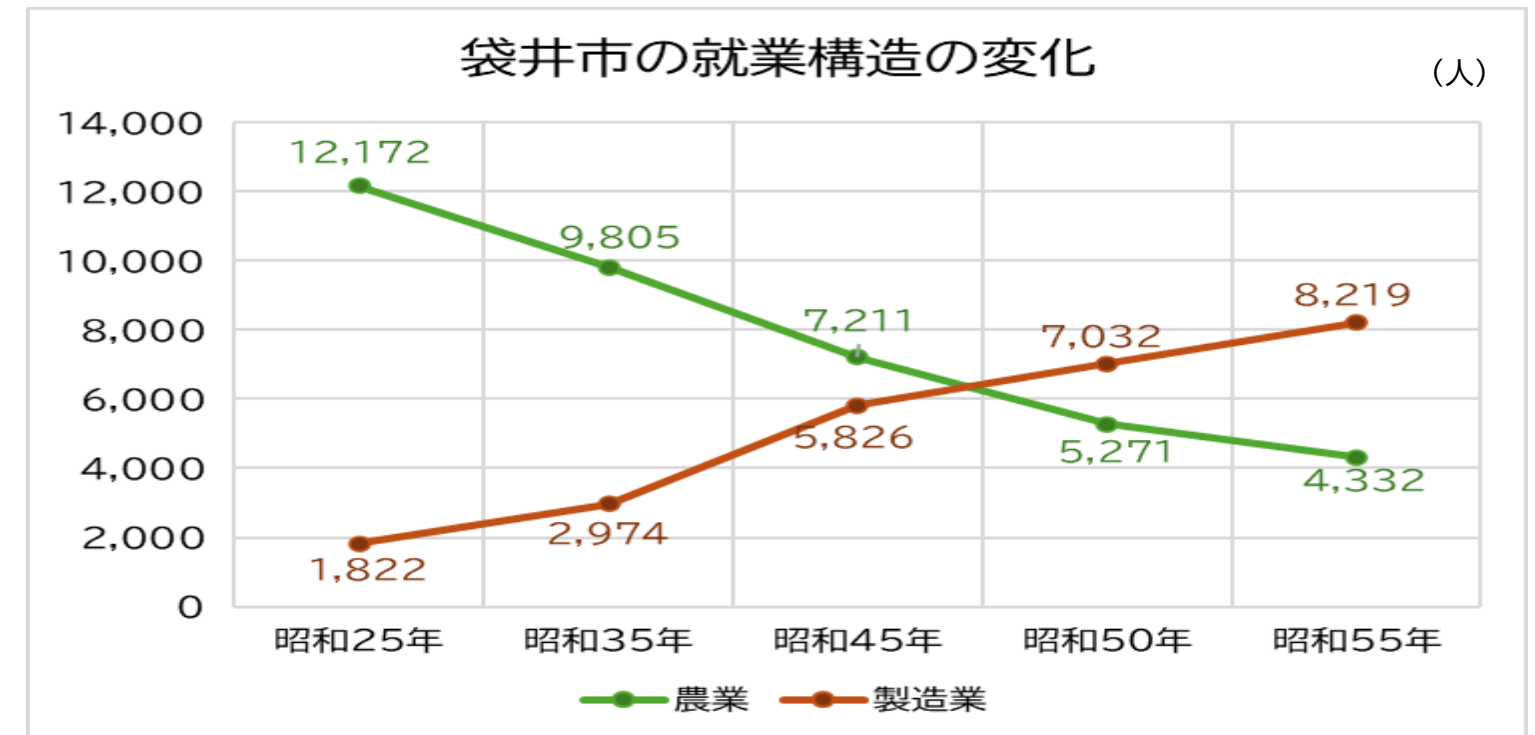
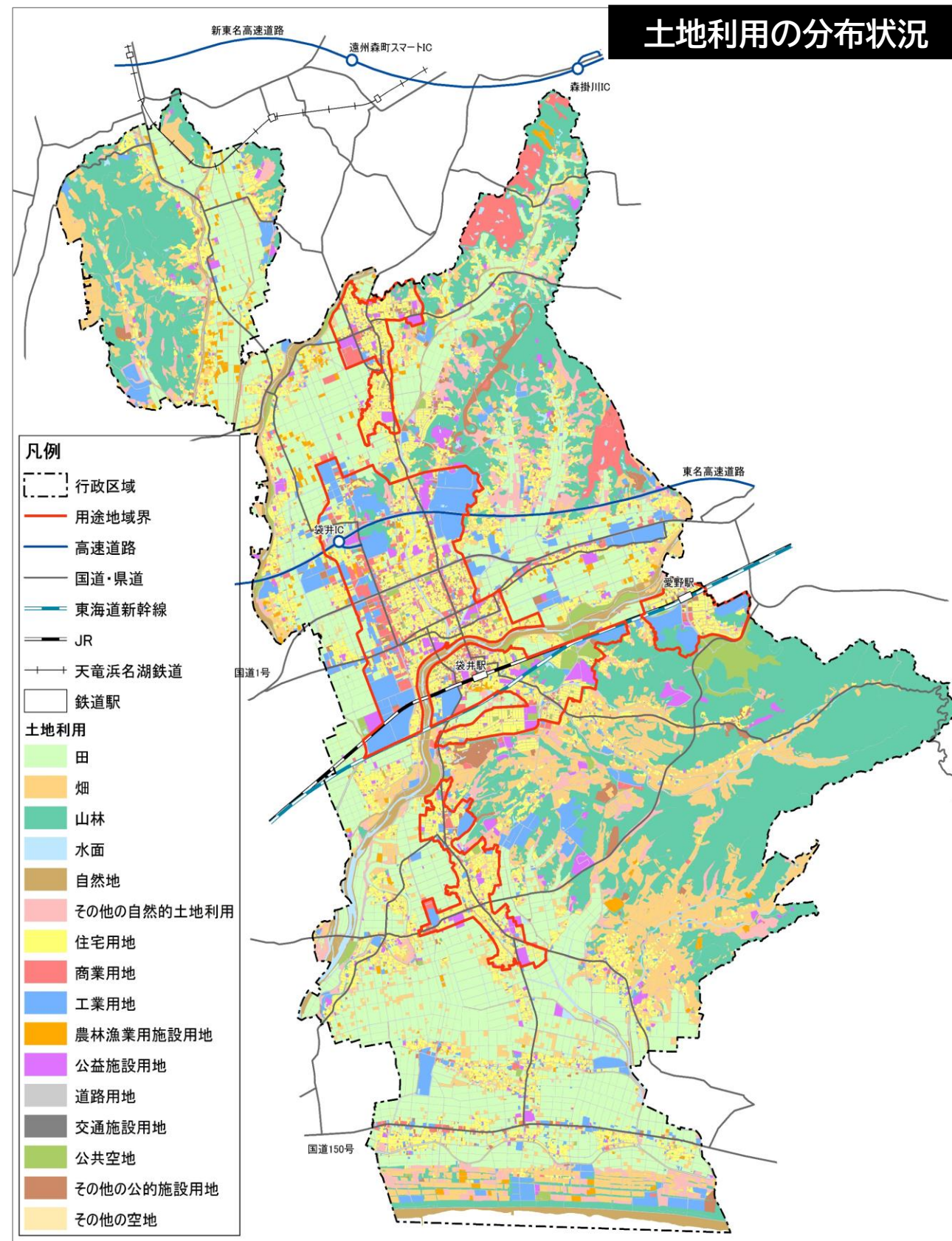
3 都市の骨格と構造について (1つの都市拠点と3つの地域拠点による「ト」の字型の都市構造)

本市の都市拠点は、**袋井駅周辺を中心とした都市拠点(中央部)**に加え、**上山梨地区(北部)**と**浅羽支所周辺(南部)**のほか、2002年W杯を契機として新たに開設した**JR愛野駅周辺(東部)**を**地域拠点**として定め、トの字型の都市骨格を形成しています。



4 土地利用から見るまちの発展について（農業中心から、農・工・商のバランスのとれたまちへ）

- 昭和33年に袋井町は「市」に昇格したものの、市制移行期には財政ひっ迫状態にあった。
- **昭和35年、全国に先駆けて「袋井市工場誘致条例」を施行し、積極的な工場誘致に着手。昭和43年に財政再建準用団体（～昭和45年3月）を経験するものの、昭和44年、東名高速道路「袋井インターチェンジ」の開設が転機**となり、企業誘致やまちの成長・発展に大きな貢献。
- こうした変遷を経て、都市と産業の近代化を図るとともに、**農業・工業・商業のバランスのとれた都市**として順調に成長してきた。



(出典)土地利用の分布図…2012年度「都市計画基礎調査」、袋井市の就業構造の変化…「袋井市史(国勢調査より作成)」のデータを加工して作成